

特別公開「雛と雛道具」展示リスト

NO.	名称	数量	年代	所蔵
1	やちよ ひな 弥千代の雛	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	85件	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
3	はさみばこ やちよ こんれいちょうど 挟箱 (弥千代の婚礼調度のうち)	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
4	ちゃべんどう やちよ こんれいちょうど 茶弁当 (弥千代の婚礼調度のうち)	1揃	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
5	まちよ あまがつ 真千代の天児	1軀	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
6	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
7	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	個人蔵
9	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	大正時代	個人蔵
10	ひな ひなどうぐ 雛と雛道具	1揃	昭和6年	本館蔵(山岡勢津子氏寄贈)
11	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵
12	こきんびな 古今雛	1対	明治時代	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
13	こきんびな 古今雛	1対	江戸～明治時代	個人蔵

主な展示作品

1 弥千代の雛 一对 (作品リストNO. 1)

男雛 高 30.6cm

女雛 高 24.7cm

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛たちびなという種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖はかまと袴はかまを着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛じろうざえもんびなという雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一对です。



2 弥千代の雛道具 (写真はその一部) (作品リストNO. 2)

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶かいおけや三棚さんたな、挟箱はさみばこなど85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して詠えられました。井伊家の家紋である橘たちばなもん紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅うめがえ枝の模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



弥千代の雛道具のうち 碁盤・双六盤

日本で古くから楽しまれてきた遊びである碁と将棋で用いる盤。碁は、白黒のコマを交互に並べ、地を広く占めた方が勝ちとなる遊びで、双六は、2個の賽を振り、出た目の数だけ白黒のコマを進め、早く相手の陣に入った方が勝ちとなる遊びです。

碁盤・双六盤は将棋盤と揃いで「三面」と呼ばれます。三面は、女性の教養を育むにふさわしい遊技具とされ、江戸時代には、婚礼調度の定番となりました。弥千代の雛道具においても、当初は三面揃であったと伝わります。



▲碁盤



▲双六盤

3 真千代まぢよの天児あまがつ 一軀 (作品リストNO. 5)

高 44.1cm

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家13代直弼なおすけの4女真千代まぢよ (1854～1904) の誕生に際して詠あつらえられた天児あまがつ。

天児は、子どもに降りかかる災けがいや穢れを代わりに負わせる人形です。子どもの誕生とともに準備され、新しい着物は、いったん天児に着せて厄を払ってから、子どもに着せることも行われました。女兒の場合は、成長した後も、雛祭で飾りつけたり、輿入れの際こしに持参することもありました。



4 古今雛こきんびな 一对 (作品リストNO. 13)

男雛 高 44.5cm

女雛 高 43.4cm

江戸～明治時代

本館蔵

男雛と女雛の一对。公家風の衣装をまとだいりう内裏雛びなの一種で、江戸時代明和年間 (1764～1772) に江戸の人形師原はら舟月しゅうげつが創始した古今雛こきんびなと呼ばれるものです。造作は、細部までよく整えられており、目元や口元、髪こしの生際などを描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。

